

分布：全国

# ヤブラン (キジカクシ科)

学名: *Liriope muscari*

## 藪蘭

別名：サマームスカリ、ノシメラン、ジャガヒゲ、テッポウダマ、ネコノメ、麦門冬

### 主な生育場所

林内の林床や藪(やぶ)などの木陰となるような場所。畦畔や樹園で見られることもある。庭先に植栽されることも多い。日陰を好むが、日がよく当たる場所でも生育する。貧栄養な環境や乾燥にも強い。

### 特徴

多数の葉が根生し30-60cmほどの高さの大きな株となる多年生。線形の葉は濃緑色で厚く光沢があり、幅約7-12mm。夏から秋にかけて株間から多くの花茎を30-50cmほど伸ばし、穂状に径7mmほどの淡紫色の6弁花を多数つける。花後に径5mmほどの光沢のある球形の種子をつけ、最初緑色だが熟すと黒色となりよく目立つ。



名前の由来：低木や笹などが密集したやぶでよく見られ、葉が蘭に似ていることから。また、葉も茎も火熨斗(ひのし:昔のアイロン)で熨(の)したように平たいことから熨斗目蘭(のしめらん)。

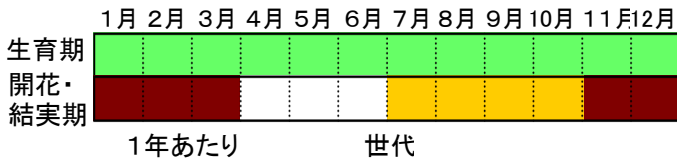
### <農業との関係>

日陰となるような水田畦畔などに見られることがあるが、農地には入らず、また畦畔管理の邪魔とならない。一方、近年、ヤブランが他の雑草の発生を抑制する効果が高いことが報告され、畦畔などで被覆植物(カバープランツ)としての可能性が高まっている。



木陰では葉はまばらになり、花付きも悪くなる

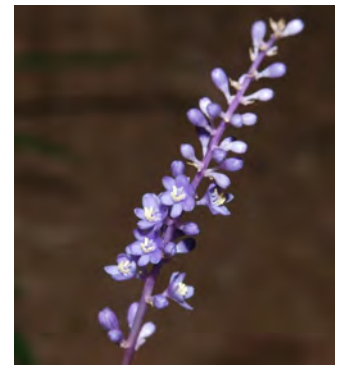
### <生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> ジャノヒゲ(2020年11月号で紹介)の葉は幅2~3mmと狭く、花序はまばらで、果実は鮮やかな瑠璃色。日当たりのよい場所を好むツルボ(2018年8月号で紹介)の葉も細く、葉の枚数は少なく、花は径7mmと小さく雄しべがよく目立つ。

### <一言うちく>

木陰にひっそりと咲くヤブランですが、ヤブランに含まれるアゼチジン-2-カルボン酸という物質が、他の植物の生育を阻害する効果が高いことが報告されました。花言葉にあるように「忍耐」「謙虚」だけでなく、他の植物に負けないうすむらさきも持ち合わせているのですね。



穂状に6弁花を多数つける

### <人との関わり合い>

夏から秋の長い期間に穂状に咲く淡紫色の花を楽しむだけでなく、年間を通じ濃緑で丈夫な植物のため、「ノシメラン」の名で古くから庭園などに観賞植物として利用されてきた。近年ではガーデニング素材としても人気があり、白や斑入りの葉など品種も豊富である。また、ジャノヒゲと同様、肥大した塊根を水洗いし天日で乾燥させたものは漢方で「麦門冬」と呼ばれ、高血圧や鎮咳、解熱、滋養強壮などに効くとされる。

### <俳句や短歌への登場>

【季語:初秋】※万葉集で詠まれる「山菅」はヤブランやジャノヒゲを詠んだものともされている。  
山川の水蔭(みかげ)に生(お)ふる山菅(やますげ)の やまずも妹は思ほゆるかも (柿本人麻呂:万葉集)  
衣熨斗目蘭祝のころは紫に (後藤比奈夫) 雁のわが家わたりぬ熨斗目蘭 (岡井省二)  
藪蘭のうすむらさきに長命寺 (山尾玉藻) 門までの藪蘭につぶやいてゐる (折井紀衣)